

関節リウマチ④ 生物学的製剤

関節リウマチの薬物療法は、種類の抗リウマチ薬、とりわけメトトレキサートの使用で、痛みをコントロールするだけでなく、関節炎を沈静化し骨関節破壊を抑制出来るところまでできました。しかし、メトトレキサートを使ってもなお病状が進行する患者さんがおられます。ところが、そういった難治性の症状に対しても驚くべき効果を示す薬が開発されました。それが、「生物学的製剤」です。

リウマチの原因となる因子を抑制する目的で、遺伝子工学といわれる先端技術によって開発された新しい薬を、生物学的製剤と呼んでいます。

現在、2種類の生物学的製剤が販売されていますが、引き続き数種類が開発中です。現在使われている両薬とも注射薬でリウマチの原因となる **TNF- α** と呼ばれる因子を抑えるものです。これまでのリウマチ治療薬に比べ非常に高い炎症抑制作用があります。しかし、関節リウマチを完治させる薬でないことと、頻度は高くないものの重篤な副作用が起きることがあります。また、価格が非常に高いため、これらの生物学的製剤の使用にあたっては、必要性、効果および治療経費について十分に検討することが必要です。

- ① **インフリキシマブ**（レミケード®） わが国で最初に関節リウマチに対して認められた生物学的製剤です。メトトレキサートによる治療では十分に効果が認められない場合に、メトトレキサートを続けながら使用します。初回、2週後、6週後と、その後は8週間に1度点滴をします。メトトレキサート以外の抗リウマチ薬との併用が有効かどうか十分に証明されていません。インフリキシマブは関節リウマチに伴う関節炎を速やかに改善し、骨破壊の進行を抑えます。これらの効果はメトトレキサートよりも優れています。
- ② **エタネルセプト**（エンブレル®） 2005年3月から発売が開始された生物学的製剤です。1回につき、10-25mgを週2回皮下に注射します。治療が始まった後、医師により妥当と判断された方は、必要に応じて自己注射を行うことも可能です。インフリキシマブのようにメトトレキサートとの併用は特に必要ありませんが、併用した方が単独で使用した時よりも効果が高まること示されています。エタネルセプトは関節リウマチに伴う関節炎を速やかに抑えて症状を改善し、骨破壊の進行を抑えます。これらの効果は、メトトレキサートよりも優れています。

生物学的製剤は、感染症（結核など）を引き起こすことがあり注意が必要ですが、今までにない素晴らしい効果が期待出来ます。関節リウマチでお悩みの方は、整形外科・リウマチ科に御相談下さい。